

《履修上の留意事項》対面形式で実施する場合には、十分な感染症対策を行うために1教室あたりの受講者数を制限をする場合がある。  
状況により、講義の全部または一部を遠隔形式で実施する場合もあるが、その際には別途連絡する。

《担当者名》教授 / 安部 博史 (心理科学部)

#### 【概要】

心理学では、こころと行動の関連を明らかにすることを目的とする。本講義では、保健・医療・福祉分野で必要とされる心理学の基礎的な知見を概説する。この講義を通じて、心理学の各分野における基礎的な知識を身につけ、それらについて説明できるようになる。また講義全体を通じて、目に見えない心をどうやって科学的に研究するのか、その方法論を身につけ説明できるようになる。

#### 【学修目標】

心理学の歴史、行動の生理的基礎、生物的基礎、学習、動機づけ、欲求不満とストレス、感情、知覚、記憶、パーソナリティ、臨床心理学、思考と言語など、代表的なトピックにおける基本的事項について理解し説明する。  
目に見えないこころを科学的に研究するための方法について、理解し身につけ説明する。

#### 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	導入	心理学とは何か理解し、説明できる。  心理学とはなにか 心理学についての誤解 心理学の方法  薬学準備教育ガイドライン (2)-	安部 博史
2	心理学の歴史	心理学の歴史について基本的事項を理解し説明できる。  薬学準備教育ガイドライン (2)-	安部 博史
3	行動の生理的基礎	脳・神経系の構造とその働き、様々な生理的指標について基本的事項を理解し説明できる。  薬学準備教育ガイドライン (2)-	安部 博史
4	行動の生物的基礎	生得的行動と初期経験について、基本的事項を理解し説明できる。  薬学準備教育ガイドライン (2)-	安部 博史
5	学習	多くの生物種に共通の単純な学習や、古典的条件づけ、道具的条件づけについて基本的事項を理解し説明できる。  強化、消去、般化、分化、自発的回復 強化スケジュール  薬学準備教育ガイドライン (2)-	安部 博史
6	学習	より高次な学習である観察学習、洞察学習、知覚運動学習について基本的事項を理解し、説明できる。 運動学習、社会的学習、行動理論	安部 博史

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		薬学準備教育ガイドライン (2)-	
7	動機づけ	基本的動機、派生的動機について、基本的事項を理解し説明できる。  動因・誘因と行動、葛藤  薬学準備教育ガイドライン (2)-	安部 博史
8	ストレス	欲求・欲求不満とストレスと、ストレスが及ぼす影響、ストレスへの対処について基本的事項を理解し説明できる。  薬学準備教育ガイドライン (2)-	安部 博史
9	感情	さまざまな感情と、感情の理論、感情が行動に及ぼす影響について、基本的事項を理解し、説明できる。  表情と情動の種類、情動の機能 情動の発達  薬学準備教育ガイドライン (2)-	安部 博史
10	知覚	知覚と物理的世界の関係、主体的要因が知覚に及ぼす影響について、基本的事項を理解し、説明できる。  感覚と知覚の基本法則、感覚の種類、ウェーバーの法則、フェヒナーの法則、スティーブンスの法則、視覚、聴覚  薬学準備教育ガイドライン (2)-	安部 博史
11	記憶と忘却	記憶と忘却について、基本的事項を理解し、説明できる。  短期記憶、長期記憶、 記憶の忘却、干渉、変容  薬学準備教育ガイドライン (2)-	安部 博史
12	思考と言語	問題解決と思考、言語と認知について、基本的事項を理解し説明できる。  言語、非言語的コミュニケーション 言語の特性と障がい 思考、問題解決 意思決定、ヒューリスティックとバイアス  薬学準備教育ガイドライン (2)-	安部 博史
13	パーソナリティー	性格とは何か、その記述方法、測定方法、さまざまな性格の理論について、基本的事項を理解し、説明できる。  性格の類型論と特性論、 性格検査法  薬学準備教育ガイドライン	安部 博史

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		(2)-	
14	臨床心理学	臨床心理学におけるさまざまな学派について、その違いとそれぞれの特色を理解し、説明できる。 科学者実践家モデルについて、基本的事項を理解し説明できる。  薬学準備教育ガイドライン (2)-	安部 博史
15	まとめ	これまで学習した各分野における知見を総合的に関連づけ、身の回りの様々な現象をそれらに基づき分析し、必要であれば改善の方略を列挙できる。  薬学準備教育ガイドライン (2)- ~ 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 A-(3)- -4, A-(3)- -1	安部 博史

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート・ミニテスト20%、期末試験80%とする。

【教科書】

「脳から始めるこころの理解」（福村書店）

【参考書】

「心理学への招待[改訂版]」（サイエンス社）

【備考】

各学生がすべての講義に出席することを前提に講義を進める。講義に欠席した場合には各自の責任において、配布資料の有無などを確認し、必要に応じて担当者に問い合わせるなどの必要な対応をとること。

【学修の準備】

予習：各回の「授業内容および学修課題」に挙げられているキーワードについて、教科書、配付資料、参考書、インターネットなどを利用して事前に予習を行う。事前学習には80～90分かかると想定している。

復習：学修内容を自分の言葉でまとめる。教科書、配付資料、参考書の当該部分を精読し、講義中に触れられなかった内容の補完や講義内容との統合を行うこと（80分）。

【薬学準備教育ガイドライン】

(2) 人の行動と心理

【 人の行動とその成り立ち】 【 動機づけ】 【 ストレス】 【 生涯発達】 【 パーソナリティ】 【 人間関係】

【関連するモデルコアカリキュラムの到達目標】

A 基本事項 (3) 信頼関係の構築

【 コミュニケーション】 【 患者・生活者と薬剤師】

【薬学部ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

1. 医療人として求められる高い倫理観を持ち、法令を理解し、他者を思いやる豊かな人間性を有する。

【実務経験】

国立大学附属病院精神科、臨床心理技術者  
公認心理師

【実務経験を活かした教育内容】

精神科および発達障害者支援センターにおける実務経験を活かし、可能な限り具体的に基礎から応用に及ぶ教育内容と臨床場面との関連について言及する。